

始めて石礫の地層を見る

りチヨワンチヨワン轉庄に達す。道路は依然凹道を爲し兩側斷絶、直立高さ約九尺乃至三十尺餘に及び、登攀すべくもあらず。然れども其の上面は臺地平坦なり、始めて圓形を帶べる石礫の地層を成形するを見る。河あり、石河シイホと名づく。幅約五十米突許、流水部は中央に六米突の幅員を有す。其の右岸なる石灰製造所は半月に一回燒製し、毎回一萬斤を得と。二十里堡を過ぎ、黒石關ヘイシヨウワンに到る。關は東南兩方面に山を負ひ、西北は洛河ロホに臨みて地形雄偉、好個の關門たり。人戸約七十。洛河は幅五十米突、兩岸緩坡を爲し、遠近五十餘艘の船を認む。渡河約六分時、渡河費每輛七十文を要し、茲に始めて赤土の地層を見たり。

土層中貝類の破片

始めて水田を見る

石家庄シイチャイチヨワンを過ぎて孫家庄スンチャイに入る。此間其の土層中に牡蠣殻其他の貝類の破片點々散在するを見る。想ふに太古は海に非ざれば必ず河口なりしならん。試みに土人に就て之を質せば則ち曰く、口碑の傳ふる所に據れば往古此地一帶の大湖水を湛え彼の牡蠣殻類は正しく當時の遺物ならんと。又其の附近は屢、洛河の水害を受けて沿道家屋の軒端に達すること有り。而して茲に始めて水田を見る。孫家庄は人家約一千餘戸、右方一小川に沿ふて北に向へば、則ち某山麓の溫泉場に